

浜の活力再生広域プラン  
(第2期)

## 1 広域水産業再生委員会

組織名	日高地区広域水産業再生委員会
代表者名	松村 徳夫

広域委員会の 構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紀州日高地区地域水産業再生委員会（紀州日高漁業協同組合、御坊市、由良町、美浜町、印南町、みなべ町、和歌山県）</li> <li>・由良町漁業協同組合</li> <li>・比井崎漁業協同組合</li> <li>・三尾漁業協同組合</li> <li>・和歌山県漁業組合連合会</li> <li>・和歌山県</li> <li>・御坊市、由良町、日高町、美浜町、印南町、みなべ町</li> </ul>
オブザーバー	なし

対象となる地 域の範囲及び 漁業の種類	<p>(地域) 和歌山県御坊市、由良町、日高町、美浜町、印南町及びみなべ町</p> <p>(漁業種類) 一本釣り漁業、はえ縄漁業、まき網漁業、定置網漁業、刺網漁業、敷網漁業、ひき網漁業、採貝藻漁業、養殖漁業、その他</p> <p>(漁業就業者数)</p> <p>由良町 105 人、日高町 102 人、美浜町 62 人、御坊市 122 人、印南町 71 人、みなべ町 71 人 計 533 人 (2018 年漁業センサス)</p>
---------------------------	---

## 2 地域の現状

## (1) 地域の水産業を取り巻く現状等

<p>和歌山県日高地域の沿岸域は、1市5町（御坊市、由良町、日高町、美浜町、印南町、みなべ町）にまたがり、南北に約115Kmの海岸線を有する。</p> <p>当地区は日ノ御崎を挟んで、瀬戸内海と太平洋の二つの海域に面し、まき網漁業（アジ・サバ・イワシ）が漁獲の大半を占めているほか、釣り漁業（タチウオ・カツオ・サワラ・イサキ等）採貝・採藻漁業（アワビ・トコブシ・ヒジキ、アカモク）、刺網漁業（イセエビ・ヒラメ）・敷網漁業（イワシ）や定置網漁業（タチウオ・ハマチ）等の沿岸漁業のほか、ワカメ養殖漁業等多様な漁業が営まれており、年間の漁業生産量は約3,700トン、生産金額は約15億円（令和元年度）である。しかし漁業者の高齢化と新規就業者の減少、漁場環境の荒廃や黒潮の大蛇行等による生産量の低下、消費者の魚離れや魚価の低迷等により生産額も減少している。さらに、漁業</p>
--

経費の多くを占める燃油価格の変動に加え新型コロナウイルス感染症拡大による魚価への影響が経営を圧迫し、漁家所得の減少に拍車をかけている。

#### (漁業協同組合)

当地域の漁業協同組合（以下、漁協）としては、1市4町（御坊市、由良町、美浜町、印南町、みなべ町）にまたがる合併漁協である紀州日高漁協の他、由良町漁協（由良町）、比井崎漁協（日高町）、三尾漁協（美浜町）がある。

#### (浜の機能)

日高町阿尾漁港、御坊市塩屋漁港、みなべ町堺漁港は、当地域の漁獲量のうち70%弱を占めるまき網漁業の拠点漁港（以下まき網拠点漁港）であり、まき網漁業の漁獲対象魚のほか、その他漁業種類による漁獲物も水揚げされている。特に、御坊市塩屋漁港は当地域の中央部に位置することから、漁業者による船舶輸送あるいは陸送による集約の利便性が高く、集約が最も期待される漁港である。

また、紀伊水道で漁獲されるマサバやマアジは全国的に評価が高く、まき網拠点漁港となっている日高町阿尾漁港や、御坊市塩屋漁港、みなべ町堺漁港では鮮度管理を徹底することで地域ブランド力の強化を図っている。

一方、当地域内に点在する他の漁港では、少ロット多品種の水揚げとなっており、市場ごとに銘柄の基準（例えばサイズごとに大・中・小等）も異なるため、量販店が求めるような定量安定供給が困難となり、価格面で不利な状況となっている。

これらの、漁獲物をまき網拠点漁港に集約することで、量販店や海外に販路を有する仲買人による買い付けが増加し販路が広がるほか、仲買人の集約も図られ、競争原理により水産物の単価向上が期待される。

#### (漁業就業者)

当地域の漁業就業者数は2018年漁業センサスによると533人であり、そのうち生産年齢人口、(65歳未満)は267人(50%)となっており、前期プラン開始時(56%)から減少した。また、この割合は、県全体の生産年齢人口の割合(54%)より低くなっている。今後、生産年齢人口の割合はさらに低下すると考えられるため、中核的な担い手の確保と育成が急務となっている。

中核的担い手の育成に関しては、漁協青年部や日高地区漁村青年協議会、漁業士会連絡協議会等が設置され、漁業者相互の情報交換や、水産業普及指導員等による知識や技術の導入を実施するとともに、地区外出身者の漁業研修などにも取り組んでいる。

(2) その他の関連する現状等

当地域は大阪からのアクセスが良いこともあり、釣りやサーフィン、スキューバダイビング等のレジャーや漁船や漁港施設を利用した体験漁業（ブルーツーリズム）も行われている。

また、漁協による水産物の加工や直販も行われており、地元消費者のみならず観光客向けにも販売を行っている。

3 競争力強化の取組方針

(1) 機能再編・地域活性化に関する基本方針

① 前期の浜の活力再生広域プランの評価（成果及び課題等）

Blank box for evaluation of the previous coastal vitality regeneration wide-area plan.

② 今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

1 整備した製氷貯氷施設を十分活用し、鮮度保持や安定操業を継続し、さらなる漁獲物の集約を図る。また、集約に伴う施設の統廃合については、各地区漁業者との十分な協議と合意を得ながらすすめる。

まき網漁業の漁獲物のうち、高品質なアジ・サバの特選出荷の取り組みをすすめ、ブランド

化を図る。

- 2 漁協が生産するワカメ、イワシ、アカモク等の加工品やアジ、サバ等の干物等を漁協直営の売店や朝市、農産物直売所等でのイベントなど、構成員間で相互協力をしながら販路拡大の機会を増やし、需要喚起と消費拡大を目指す。また、アカモクはこれまでも利活用していたが、先進事例の取り組みやアンケート結果等を参考に改良を加え、更に商品力の向上を図る。
- 3 アカモク、ヒロメ、ウニ等の新たな養殖対象種について検討し、令和5年度には区画漁業権更新が予定されることから、養殖漁業を推進することで漁家所得の向上を図る。また、養殖事業者と地域の漁業者との協働により新たな出荷形態を模索する。
- 4 燃油価格の高騰による漁業経営の圧迫を軽減するため、減速航行や定期的な船底清掃の実施、省エネ型エンジンの導入など、地域全域で引き続き取り組む。また、セーフティネット構築事業への加入により、燃油価格の高騰に備える。
- 5 漁船や漁港施設を利用した体験漁業（ブルーツーリズム）の取り組みをすすめ、漁家所得の増大を図るとともに、魚食普及や後継者育成につなげる。

## (2) 中核的担い手の育成に関する基本方針

### ① 前期の浜の活力再生広域プランの評価（成果及び課題等）

### ② 今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

- 1 漁業士やその他中核的漁業者について、知識や技術の習得を促進し、更なる資質の向上を図る。
- 2 新規就業者を確保するため、和歌山県漁業就業者確保育成センターと協力し漁業求人情報の収集・提供を行うとともに、中核的漁業者等による技術研修等により新規就業者の確保を図る。

3 中核的漁業者および漁家子弟を含めた新規就業者への支援として漁船リース事業や省力・省コスト機器や生産性向上に資する機器の導入を推進する。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁業法及び和歌山県漁業調整規則による規制のほか、体長制限や操業時間の制限等を定めた資源管理計画を策定し、自主的な資源管理を行い、水産資源の維持に努める。

(4) 具体的な取組内容（年度ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和3年度）

取組内容	<p>① 製氷貯氷施設の整備された拠点漁港について、近隣地区から漁獲物の集約を進める。</p> <p>また、まき網漁業で水揚げされたアジ・サバ等について、魚体サイズや脂質含量の基準値を定め、当該基準をクリアするものを特選として、差別化した出荷に取り組み、ブランド化やイベント等を通じた販路の拡大に取り組み。</p> <p>また、各地区において施設の維持管理費と組合員負担について協議し、統廃合の是非から十分検討する。</p> <p>② ワカメ、イワシ、アカモク等の加工品やアジ、サバ等の干物について、比井崎漁協の直売所や紀州日高漁協の朝市に加え農産物直売所等でのイベントなど、相互協力をしながら販路拡大の機会を増やす。</p> <p>また、湯がきアカモクについて、先進地における加工や保存の方法等、さらにアンケート調査の結果を参考にし、色味や粘りに改良を加え、商品力の向上を図る。</p> <p>③ 漁協または漁業者グループが、アカモク、ヒロメ、ウニ等の新たな養殖漁業の取り組みについて、水産試験場や普及指導員の指導を受けながら協議する。</p> <p>また、由良町内の養殖事業者と連携して、漁業者の漁獲物の新たな出荷先の確保について協議する。</p> <p>④ 漁業者は、減速航行や定期的な船体清掃の実施に加えて、機関換装の際には省エネ型エンジンを導入し、操業コストを削減する。</p> <p>また、セーフティネット構築事業への加入により、燃油価格の高騰に備える。</p> <p>⑤ 既存のクルージングや体験漁業の取り組みについて、メニューの改善や集</p>
------	--

	<p>客力を向上させ、漁家所得の増大に繋げる。また、各地区で検討をすすめ、新たな取り組みについて模索する。</p> <p>⑥ 販路拡大や資源管理、新技術等の知識を得るために、漁業士連絡協議会や漁村青年協議会等の取り組みとして、先進地等の視察研修や水産試験場等から講師を招へいた研修会を開催する。</p> <p>⑦ 和歌山県漁業就業者確保育成センターを窓口として、漁業求人情報を発信するなど、新規就業者を確保する。 また、中核的漁業者等が指導者となり、新規就業希望者を対象とした漁業研修を行う。</p> <p>⑧ 中核的漁業者や漁家子弟を含めた新規就業者は、支援策を活用して省力化・省コスト機器や生産性向上に資する機器を導入し、経営の安定化を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>① 紀州の魚「特選出荷」支援（県）</p> <p>③ 不漁に強い漁業経営グループ創出事業（県）</p> <p>④ 漁業経営セーフティネット構築事業（国）</p> <p>④⑧ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</p> <p>⑤ ブルーツーリズム推進事業（県）</p> <p>⑦ 漁業人材育成総合支援事業（国）</p> <p>⑦ 次代につなぐ漁村づくり支援（県）</p> <p>⑧ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</p> <p>② 広域浜プラン実証調査事業（国）</p>

2年目（令和4年度）

取組内容	<p>① 製氷貯氷施設の整備された拠点漁港について、近隣地区から漁獲物の集約を進める。 また、まき網漁業で水揚げされたアジ・サバ等について、魚体サイズや脂質含量の基準値を定め、当該基準をクリアするものを特選として、差別化した出荷に取り組み、ブランド化やイベント等を通じた販路の拡大に取り組む。 また、各地区において施設の維持管理費と組合員負担について協議し、統廃合の施設等について検討を進め、合意を図る。</p> <p>② ワカメ、イワシ、アカモク等の加工品やアジ、サバ等の干物について、比井崎漁協の直売所や紀州日高漁協の朝市に加え農産物直売所等でのイベント</p>
------	---

	<p>など、相互協力をしながら販路拡大の機会を増やす。</p> <p>③ 漁協または漁業者グループが、アカモク、ヒロメ、ウニ等の新たな養殖の取り組みについて、水産試験場や普及指導員の指導を受けながら協議し、次年度の区画漁業権更新に向けた要望を県に提出する。</p> <p>また、由良町内の養殖事業者と連携して、漁業者の漁獲物について、新たな取り引きを開始する。</p> <p>④ 漁業者は、減速航行や定期的な船体清掃の実施に加えて、機関換装の際には省エネ型エンジンを導入し、操業コストを削減する。</p> <p>また、セーフティネット構築事業への加入により、燃油価格の高騰に備える。</p> <p>⑤ 既存のクルージングや体験漁業の取り組みについて、メニューの改善や集客力を向上させ、漁家所得の増大に繋げる。また、各地区で検討をすすめ、新たな取り組みについて模索する。</p> <p>⑥ 販路拡大や資源管理、新技術等の知識を得るために、漁業士連絡協議会や漁村青年協議会等の取り組みとして、先進地等の視察研修や水産試験場等から講師を招へいた研修会を開催する。</p> <p>⑦ 和歌山県漁業就業者確保育成センターを窓口として、漁業求人情報を発信するなど、新規就業者を確保する。</p> <p>また、中核的漁業者等が指導者となり、新規就業希望者を対象とした漁業研修を行う。</p> <p>⑧ 中核的漁業者や漁家子弟を含めた新規就業者は、支援策を活用して省力化・省コスト機器や生産性向上に資する機器を導入し、経営の安定化を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>① 紀州の魚「特選出荷」支援（県）</p> <p>③ 不漁に強い漁業経営グループ創出事業（県）</p> <p>④ 漁業経営セーフティネット構築事業（国）</p> <p>④⑧ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</p> <p>⑤ ブルーツーリズム推進事業（県）</p> <p>⑦ 漁業人材育成総合支援事業（国）</p> <p>⑦ 次代につなぐ漁村づくり支援（県）</p> <p>⑧ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</p>

--	--

3年目（令和5年度）

取組内容	<p>① 製氷貯氷施設の整備された拠点漁港について、近隣地区から漁獲物の集約を進める。</p> <p>また、まき網漁業で水揚げされたアジ・サバ等について、魚体サイズや脂質含量の基準値を定め、当該基準をクリアするものを特選として、差別化した出荷を継続し、ブランドの定着を図る。</p> <p>また、各地区において施設の維持管理費と組合員負担について協議し、統廃合の施設等について検討を進め、合意を図る。</p> <p>② ワカメ、イワシ、アカモク等の加工品やアジ、サバ等の干物について、比井崎漁協の直売所や紀州日高漁協の朝市に加え農産物直売所等でのイベントなど、相互協力をしながら販路拡大の機会を増やす。</p> <p>③ アカモク、ヒロメ、ウニ等の新たな区画漁業権を取得し、養殖生産を開始する。</p> <p>また、由良町内の養殖事業者と連携して、漁業者の漁獲物について、新たな取り引きを継続する。</p> <p>④ 漁業者は、減速航行や定期的な船体清掃の実施に加えて、機関換装の際には省エネエンジンを導入し、操業コストを削減する。</p> <p>また、セーフティネット構築事業への加入により、燃油価格の高騰に備える。</p> <p>⑤ 既存のクルージングや体験漁業の取り組みについて、メニューの改善や集客力を向上させ、漁家所得の増大に繋げる。また、各地区で検討をすすめ、新たな取り組みについて模索する。</p> <p>⑥ 販路拡大や資源管理、新技術等の知識を得るために、漁業士連絡協議会や漁村青年協議会等の取り組みとして、先進地等の視察研修や水産試験場等から講師を招へいた研修会を開催する。</p> <p>⑦ 和歌山県漁業就業者確保育成センターを窓口として、漁業求人情報を発信するなど、新規就業者を確保する。</p>
------	---



	<p>また、中核的漁業者等が指導者となり、新規就業希望者を対象とした漁業研修を行う。</p> <p>⑧ 中核的漁業者や漁家子弟を含めた新規就業者は、支援策を活用して省力化・省コスト機器や生産性向上に資する機器を導入し、経営の安定化を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>③ 不漁に強い漁業経営グループ創出事業（県）</p> <p>④ 漁業経営セーフティネット構築事業（国）</p> <p>④⑧ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</p> <p>⑤ ブルーツーリズム推進事業（県）</p> <p>⑦ 漁業人材育成総合支援事業（国）</p> <p>⑦ 次代につなぐ漁村づくり支援（県）</p> <p>⑧ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</p>

4年目（令和6年度）

取組内容	<p>① 製氷貯氷施設の整備された拠点漁港について、近隣地区から漁獲物の集約を進める。</p> <p>また、まき網漁業で水揚げされたアジ・サバ等について、魚体サイズや脂質含量の基準値を定め、当該基準をクリアするものを特選として、差別化した出荷を継続し、ブランドの定着を図る。</p> <p>また、各地区において施設の維持管理費と組合員負担について協議し、統廃合の施設等について検討を進め、合意を図る。</p> <p>② ワカメ、イワシ、アカモク等の加工品やアジ、サバ等の干物について、比井崎漁協の直売所や紀州日高漁協の朝市に加え農産物直売所等でのイベントなど、相互協力をしながら販路拡大の機会を増やす。</p> <p>③ アカモク、ヒロメ、ウニ等の新たな区画漁業権を取得し、養殖生産を継続する。</p> <p>また、由良町内の養殖事業者と連携して、漁業者の漁獲物について、新たな取り引きを継続し、拡大を図る。</p> <p>④ 漁業者は、減速航行や定期的な船体清掃の実施に加えて、機関換装の際には省エネエンジンを導入し、操業コストを削減する。</p> <p>また、セーフティネット構築事業への加入により、燃油価格の高騰に備える。</p>
------	--

	<p>⑤ 既存のクルージングや体験漁業の取り組みについて、メニューの改善や集客力を向上させ、漁家所得の増大に繋げる。また、各地区で検討をすすめ、新たな取り組みについて模索する。</p> <p>⑥ 販路拡大や資源管理、新技術等の知識を得るために、漁業士連絡協議会や漁村青年協議会等の取り組みとして、先進地等の視察研修や水産試験場等から講師を招へいた研修会を開催する。</p> <p>⑦ 和歌山県漁業就業者確保育成センターを窓口として、漁業求人情報を発信するなど、新規就業者を確保する。 また、中核的漁業者等が指導者となり、新規就業希望者を対象とした漁業研修を行う。</p> <p>⑧ 中核的漁業者や漁家子弟を含めた新規就業者は、支援策を活用して省力化・省コスト機器や生産性向上に資する機器を導入し、経営の安定化を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>③ 不漁に強い漁業経営グループ創出事業（県）</p> <p>④ 漁業経営セーフティネット構築事業（国）</p> <p>④⑧ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</p> <p>⑤ ブルーツーリズム推進事業（県）</p> <p>⑦ 漁業人材育成総合支援事業（国）</p> <p>⑦ 次代につなぐ漁村づくり支援（県）</p> <p>⑧ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</p>

5年目（令和7年度）

取組内容	<p>① 製氷貯氷施設の整備された拠点漁港について、近隣地区から漁獲物の集約を進める。 また、まき網漁業で水揚げされたアジ・サバ等について、魚体サイズや脂質含量の基準値を定め、当該基準をクリアするものを特選として、差別化した出荷を継続し、ブランドの定着を図る。 また、各地区において施設の維持管理費と組合員負担について協議し、統廃合の施設等について検討を進め、合意を図る。</p> <p>② ワカメ、イワシ、アカモク等の加工品やアジ、サバ等の干物について、比井崎漁協の直売所や紀州日高漁協の朝市に加え農産物直売所等でのイベントなど、相互協力をしながら販路拡大の機会を増やす。</p>
------	---

	<p>③ アカモク、ヒロメ、ウニ等の新たな区画漁業権を取得し、養殖生産を継続する。 また、由良町内の養殖事業者と連携して、漁業者の漁獲物について、新たな取り引きを継続し、拡大を図る。</p> <p>④ 漁業者は、減速航行や定期的な船体清掃の実施に加えて、機関換装の際には省エネエンジンを導入し、操業コストを削減する。 また、セーフティネット構築事業への加入により、燃油価格の高騰に備える。</p> <p>⑤ 既存のクルージングや体験漁業の取り組みについて、メニューの改善や集客力を向上させ、漁家所得の増大に繋げる。また、各地区で検討をすすめ、新たな取り組みについて模索する。</p> <p>⑥ 販路拡大や資源管理、新技術等の知識を得るために、漁業士連絡協議会や漁村青年協議会等の取り組みとして、先進地等の視察研修や水産試験場等から講師を招へいた研修会を開催する。</p> <p>⑦ 和歌山県漁業就業者確保育成センターを窓口として、漁業求人情報を発信するなど、新規就業者を確保する。 また、中核的漁業者等が指導者となり、新規就業希望者を対象とした漁業研修を行う。</p> <p>⑧ 中核的漁業者や漁家子弟を含めた新規就業者は、支援策を活用して省力化・省コスト機器や生産性向上に資する機器を導入し、経営の安定化を図る。</p>
活用する支援措置等	<p>③ 不漁に強い漁業経営グループ創出事業（県）</p> <p>④ 漁業経営セーフティネット構築事業（国）</p> <p>④⑧ 競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）</p> <p>⑤ ブルーツーリズム推進事業（県）</p> <p>⑦ 漁業人材育成総合支援事業（国）</p> <p>⑦ 次代につなぐ漁村づくり支援（県）</p> <p>⑧ 水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）</p>

(5) 関係機関との連携

アカモク、ヒロメ、ウニ等の新たな養殖に係る適地決定や養殖技術の習得について、水産試験場や普及指導員の指導を受けながら取り組む。

構成員である各市町と、当該市町の各観光協会や商工会と連携し、各種イベント等での朝市開催など、PRの機会を確保する。

#### (6) 他産業との連携

水産物の販売に関して、地元の一般客だけでなく観光客も集客する農業協同組合が運営するファーマーズマーケットや民間企業が運営する農水産物直販店量販店との連携を強化する。

### 4 成果目標

#### (1) 成果目標の考え方

まき網拠点漁港に、地域内の各漁港で水揚げされたタチウオやサワラ等の水産物を集約していくことで、仲買人の集約も図られ、競争原理により水産物の単価向上が期待できるため、指標漁獲物としてタチウオのまき網拠点漁港への集約率を成果目標に設定した。

また、当地域全体の将来を担うことができる漁業者の育成と新規就業者の確保が、地域を活性化する基礎となることから、中核の労働力となる年齢（生産年齢）である65歳未満の新規就業者数を成果目標の指標とした。

加えて、湯がきアカモクの生産について、生産量の拡大と品質向上による生産額の増大から、販売額を成果目標に設定した。

#### (2) 成果目標

まき網拠点漁港への指標 漁獲物（タチウオ）の集約率	基準年	令和元年度： 78%
	目標年	令和7年度： 85%
新規就業する65歳未満の漁業者数	基準年	令和元年度： 4人
	目標年	令和7年度： 6人
湯がきアカモクの販売額	基準年	令和元年度： 623万円
		令和7年度： 685万円

#### (3) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>○まき網拠点漁港への集約を図る主要魚種の集約率</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当地域で広域的な漁獲対象種であるタチウオを、指標種として選定した。</li> <li>・前期の5年間で目標（61%）を上回る集約率となったが、現時点で集約できていない分量（22%相当）については、集約に対して抵抗が強いと考えられるため、今後5年間で、その1/3相当である7%分をさらに集約することを目標とする。</li> </ul>
<p>○65歳未満の年間新規就業者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年漁業センサスによる当地域の漁業就業者数のうち生産年齢人口（15歳以上65歳未満の人数）は267人（50%）であるが、このうち112人が10年後には65歳以上となる。</li> <li>・2018年を起点として、以降10年かけて生産年齢人口の減少幅を112人から56人に圧縮することを目標とする。</li> <li>・10年間で56人、1年あたり5.6人≒6人の新規就業者の確保を目標とする。</li> </ul>
<p>○湯がきアカモクの生産額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年間で基準年から10%の販売額の向上を目指すことを目標とする。</li> </ul>

## 5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生広域プランとの関係性
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業（国）	⑧漁船リース事業による競争力強化に必要な漁船や推進機関等の導入
競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）	③、⑧省力・省コスト化に資する機器又は生産性向上に資する機器の導入
漁業経営セーフティネット構築事業（国）	③燃油高騰時の補填
漁業人材育成総合支援事業（国）	⑦新規就業者の確保と漁労技術の習得
次代につなぐ漁村づくり支援（県）	⑦新規就業者の確保と漁労技術の習得
紀州の魚「特選出荷」支援（県）	①高品質なアジ・サバのブランド化の取り組み

不漁に強い漁業経営グループ創出事業（県）	③新たな漁業種類の追加や、漁獲物の高付加価値化に取り組む漁業者グループを支援
ブルーツーリズム推進事業（県）	⑤新たな体験メニューや交流施設の整備、情報発信などを支援
広域浜プラン実証調査事業（国）	②湯がきアカモクの改良